

令和7年度 第2回
国府地域振興未来会議議事概要

日 時：令和7年7月11日（金）13時30分～15時10分

場 所：国府地域交流会館

出席委員：山田一孝、前岡美華子、倉持裕彌、福田克彦、吉永昇平、
長尾隆基、矢芝好美、福田大輔、岸田玲子、池谷有希

事務局：須崎支所長、藪下副支所長兼地域振興課長、吉田産業建設課長
植村市民福祉課長、石原地域振興課長補佐

鳥取市：地方創生推進室 西田室長、遠藤室長補佐

◎会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
国府地域未来プランで議論する項目等について
- 4 その他
鳥取市第12次総合計画及び第3期鳥取市創生総合戦略（鳥取市地方創生アクションプラン）の策定について
- 5 閉会

【概要】

3 議事

国府地域未来プランで議論する項目等について

〔委員〕 第1回目の未来会議で委員の皆さんに様々な意見を言っていたが、今日は国府地域の将来を見据えた形でどの項目を進めていきたいか改めてご意見を伺いたい。

〔委員〕 教育環境というか、今後の学校の在り方というか、そういうことを考える検討組織を立ち上げるのが一番、これは地域で考えないといけない。検討会の立ち上げを一番にやっていきたい。

〔委員〕 一番飛びつきやすいのは観光ではないか。酒賀神社、雨滝など旅行会社にプランを加えてもらう形で活性化してはどうか。また、奥の高齢者が困っているのは交通手段がないということ。タクシーは不便だし、家族に頼るしかない。観光で人を呼ぶのはいいけど国府に住んでいる人が幸せで暮ら

しやすい町でないといけないと思うので、買い物や病院の日とか曜日を決めて高齢者の交通の手助けの方法があればもっといい。

〔委員〕 栃本から楠城の間の休耕地を何とかしたい。全部稼働できたらいいと思うが、大前提として人がいないし担い手となる人がいない、受け入れる体制もない。旧栃本児童館、旧大茅小学校と体育館、プールやグラウンドだけでも使っていない面積が相当ある。大茅の人がそこを利用して何かしているかといわれたら、ほぼ使用していない。昔のように運動会もない。旧施設を使用したいという人がいても手続きが面倒で、そこまでするのならもういいとなったこともあると聞いている。手続きがもっと簡単にできたらいい。

人を呼ぶしかないので、小学校跡を改装して住めるようにしたり、体育館がお米の保管に使えないだろうかとか、休耕地を何とかしてお米の生産量を増やしたい。大茅は水がきれいだし、農業するには適していると思う。観光地よりは農業をするための場所として発展させていきたい。

〔委員〕 農業委員会でも話が出たのが、田んぼが小さくて大きな機械が入らないので、再整備して大型機械が入れるように区画を大きくして作れるようにしたい。とてもきれいなお米ができるが、農業振興をするにあたって大事なのが獣害対策もセットで取り組まないといけない。岡益清水といった平野部でも鹿の被害が出てきているし、平野部のいい条件の田んぼでも米が作れない状態となっている。水路の問題もあるし、獣害の問題が何とか出来たらまだ作りたいという農家さんも少なくはない。今までだったら安い単価で大変だったけど、今の状況だと単価がすごく下がることはなさそうなので、移住してきてもらってやってもらえる人材があればと思う。

〔委員〕 外から呼び込むのは多分みんな必死にどこもやっているのだろうと思う。その前にまず、国府に住んでいる私たちが幸せに生きているところを見せること、見せたいという思いが、もしかしたら高齢の方の交通の便をよくするとかにつながり、持続可能な地域づくりに全部つながるのではないかなと思う。

自分たちの子どもに国府に帰ってきてと言えるようにしたいし、今住んでいる人を幸せにしたいという思いである。何度も転勤しているが、鳥取が一番子育てに向いている。それは自然が豊かということより、人が一番あったかい。

〔委員〕 観光協会という立場からするとついついイベントに目がいきがちになっているが、そこに住んでいる人がどれだけ自分の地域を愛しているか、その先にある部分に他の地域の人が魅力を感じてくれるかという事が大事なのかなと思う。

〔委員〕 毎年、市ではこんな計画で事業をします、といろいろあるが限界がある。多分事業は実施できるが、それに見合って本当に我々が欲しかった効果のようなものが得られるかといえ、得られないかもしれない。それよりも、

今話が上がっているような、人を育てるという目に見えない何か共有できる目標を明確に定めてそこにいろんな事業を集約していく形を作る。長い目で見ることができ、単年度でうまくいく、いかないに左右されることなく、そこに取り組む我々自身が誇りを持てるような、結果的に一気にやっているみたいなロジックのようなものがあるといいかなと思った。

このプランがあって、こういう会議体があるので結果を残すことが求められる事情があり、会長は大変苦慮されていると思うが、これからどう進めていくかについては、考え方や視点など、国府オリジナルなものにしてこんなことをしているのは国府だけだみたいなものがあればやっている側も楽しくなるのではないかな。

〔委員〕 本日は具体項目について集約していこうと進めてきたが、今の話はとても大切に、すごく漠然としているが究極の目的だと思う。そこを見失わないようにしないといけない。

〔委員〕 議論するテーマを絞るという事で話をしているが、これがいいとはなかなか言えない。若い人がいないと未来がない。国府に住みたいけど住むところがない、簡単に「住んでみようかな」という空き家があったらいい。小学校の適正化・統合の話をしないといけないが、国府東小がなくなると奥に帰ってくる人が減るのではないかなと思う。子どもたちが住める環境について、どこまで踏み込んで検討できるかだが、興味があるというよりは心配。

〔委員〕 以前、防災の話を聞いた。その時に感じたのは地域任せになっているということ。研修で真庭市に行ったときに感じたのは地域と行政とが連携をとることが大事。交通の便、自家用車以外の交通手段、お年寄りや子供の地域基盤について課題として取り上げたほうがいいと感じる。

〔委員〕 防災は大事だが自分ごととしてとらえるのが難しい。国府ではいろんな経験のある人がまとめてされていて、意識啓発は重要だが浸透しづらいところでもある。行政としてもやるが、未来プランで取り上げるかどうか。

〔委員〕 大きく二つのテーマと思った。どちらも人に焦点を当てていて、高齢化というところで奥に住んでいる人の生活基盤に対する手当という部分と、未来を考えたときに継続できるかという若者に対する部分と、その二つが皆の共通の認識と思う。その二つに対しての手当てが何かしら必要ではないかな。

若い人を呼び込むとして、アパートはいっぱい建っているので子育て世帯はけっこうあるはず。それでも定着しない理由は、仕事がない、継続して収入を得られる手段がないので親として定着できない。観光を盛り上げるのか、農業を手厚くして魅力を感じる人を増やすのか。高齢の方には交通の便がいいとかや医療とか買い物に行くのに困らないとかいうところの手当てになるかなと思う。

住んでいる人は本当に何を望んでいるか。先ほども言われたが、ここに住んでいる人が幸せそうであれば私もここに住みたいと思うようになるし、都会では子育て環境がなくなっているとか話を聞く中で、保育料が安くて鳥取はうらやましいとか話も聞くのでそういうのも外へ発信が必要かと思う。観光地にしてもスポット的にはいいものかもしれないが、点で終わっちゃっていて線でつながらないし、他に行くところもないし残念なことになっている。そういういろんなことが広がってつながっていくのがいいプランになるんだろうと思う。

〔委員〕 例えばこの会議をやめてしまう。やめて、今までと変わらず町が動いていくなればこの会議にこだわる必要はないと思う。一度なしにしてから立ち上げ直すという方法もある。このような会で意見を交わすという何か難しいが、例えば、しばらくこういう町づくり事業を置いておいて、どれくらい有機的なものにできるかに集中するとかそんな方向性もあるかもしれない。結局、委員の皆がここに時間とコストを払って参加されていて、それに見合う何かを得られているか、国府のために自分はこれくらいコストをかけてもいい、これくらい時間をかけてもいい、これくらい何か頑張るみたいなのが、高いレベルであるなら全体を引っ張る原動力になるし、低いレベルであるなら、市の取り組みやどこでもやっている内容のものに参加すればいいだけなのかなと思う。我々がどれくらいコストを投じるかは、結局その議論の中身に関連してくると思う。

国府にすごい思い入れがある委員の方もおられ、その熱量もすごいものがあるけれども、いろんなものをここに投下できる人もあればそうじゃない人もいます。その辺りをどうするか。

〔委員〕 委員皆の意見が本音でどこまで出ているかというのは、このような会議の場では難しく、白熱した議論をしようと思えば別の形がいいのかと想ったりするが、残念ながらこのようなたてつけであり、できるところでやっていけないといけないのかと思っている。

その中で、委員の皆さんは分かっておられると思うが、共有する目的は何かと言えば、ぼんやりだがおそらく皆さんが地域をよくしていきたいということだと思う。共有している部分はあるが、具体的な項目を集約するのは今の議論の中では難しいかなと思う。方向性は見い出していけるかなと感じている。

〔事務局〕 事務局としても昨年このプランを策定する段階で方向性、どう進めていくかは非常に悩んだ。

教育の適正化については、課題が数字に出ているので地域の方と調整しながら最終的に検討会が立ち上がったらいいなという思いがあるし、農業については専門的な委員さんもおられる。事業をしていく中である程度の目標が達成できたかどうかについては、おそらく達成とは言えないと思う。

人を育てるという中で、各事業に何かしらの影響が出てくるものができたらいいなという思いもある。

会議を無くすわけにはいかないので、第3回目の未来会議に向けてもう一度整理していきたいと考える。

〔委員〕 最終的なゴールが不明。この会議で議論したことが具体的にこんな補助金がありましたとか、施策として立ち上がりましたとかがあれば委員のモチベーションが上がる。実際に今住んでいる委員の意見として、このままでいいのか、もっと違うものがあるのではないかということについて意見をまとめていけば、次年度以降予算化されて進んでいくという理解をしているがいかがか。

〔事務局〕 すべての予算化されるものではないが、重要なものについては予算化に向けて支所も努力をしていくことになるし、事業の内容によっては市のこんな補助金が使えとか、県のこんな補助金が使えないかと支所も勉強しながら動いていくことになる。

議論した内容が何にもつながらないという事になるとこの会議の存在意義がなくなるので、何か課題解決につながるように支所も動いていきたいと思うので、委員の皆さんの議論をお願いしたい。

〔委員〕 農業の話もそうだが、自分は農業をやったことがなく、知識もない。だけど現状をみて「ヤバイ」と思うし、でもどうしたらいいかわからない。そんな状況でもこの会議で専門的な意見が聞けるし、ここはどうしたらいいかと聞いたりして、「難しい」と言われて駄目だったらそこは妥協していく、みたいに話し合うだけでも知識が得られるため結構意味がある。

〔委員〕 わざわざ2項目に絞る必要はないかなと思う。2項目に絞って議論する方がかえって難しいのではないか。6項目は当然ながら関連がある。とりあえずプランでは6つの項目にしてあるだけで、本当は1つか2つの課題でそれに付属したものだと思う。そんな感じで議論を進めていけばいい。本音で議論するために別の会議形式にしてみてもどうか。

〔委員〕 行政には行政の立場がある。委員としては、住んでいる人としての困りごとやどうして欲しいかなど好きなことを言い合った中に、賛同したり、それはできるのではないかという案が一つでも出たら行政としてはいいのでは。

〔事務局〕 地域の人が、ここを観光地化して人を増やしたいと思っているのであればそれは課題になり、課題にむけて解決すべきものである。これがすごい課題ではないかという意見があれば、その課題に向けて何をしたいこうかというような議論ができたらいいと思う。

〔委員〕 先ほども意見が出たが、ゴールはどこかと感じた。地元がこうしてほしいということが予算化されて課題が緩和されることにつながれば参加したかいがある。これができるのではとそこに向かって皆が意見を持ち寄り、農業の事は分からないがインフラの事なら専門なので意見が出せたりする。

〔委員〕 自分の立場は、I ターン者であり、農業者であり、消防団というなかで、人を育てると言うことが重要だと感じる。消防団は高齢化で人数も減り、若い人に消防団に入ると言いにくい状況もある。消防車は1人では運転できないので、火事が起きても1人では出動できないような状態である。人がいないと仕事がないという事だったりするので、人を育てることが大事だけどどうしたらいいのだろうと思う。

幸い子どもが「農業ちょっと面白そうだな」と言ってくれているので、そうしてもらえそうな、農業に限らず仕事を国府町内に作っていかないといけないのかなと思うし、若い世代に興味をもってもらえる状況を作っていくといけないと思う。

観光も大事だけど、イベントとか疲れてしまうというイメージがあって、何か面白そうなことをやっているのに事業化できてない。

本当に2項目に絞るのは難しいと思う。

〔事務局〕 2項目に絞ると言い出したのには、6項目あるプランを5年間あるので1年に2項目ずつくらい議論していけば委員の皆さんから意見が出やすいのではと思います。今年度は委員も最初だし2項目を議論していけたらなと思ったところである。

先ほど委員の皆さんにご意見をいただき、ここを集中的にやっ払いこうということになれば、そういう項目を集中して議論していくという事でもいいと思う。全体的に2項目に絞らずご意見をいただきながら進めていく形がいいか。

〔委員〕 2項目に絞るのは、2項目しか議論しないということではないので、そこは安心した。

4 その他

鳥取市地方創生戦略室より鳥取市第12次総合計画及び第3期鳥取市創生総合戦略（鳥取市地方創生アクションプラン）の策定について説明

～ 質疑なし ～

5 閉会

次回の開催日時

令和7年8月28日（木）10：00～

国府町総合支所第1会議室